

太陽生命ウィメンズセブンズシリーズ2019

年間総合8位

Aクラス入賞



コアチームとして  
念願のシリーズ初参戦

平成31年4月28日から令和元年6月30日の間、太陽生命ウィメンズセブンズシリーズ2019が行われた。本シリーズは秋田大会を皮切りに東京大会、鈴鹿大会(三重県)、富士山裾野御殿場大会(静岡県)の4戦が各2日ずつ実施され、自衛隊体育学校PTSは通算19試合を戦い抜いた。

昨年11月に行われた入替戦を勝ち抜き、今季から初めてコアチーム(上部リーグで戦う12チーム)として参加したPTSは、ゲームキャプテンの葛西杏奈3等陸曹を中心に健闘し、年間総合8位でAクラス(12チーム中上位8チーム)入賞を果たした。(※年間総合成績で12チーム中チャレンジチーム【ラグビー協会が選出する高校生以上の有望選手】を除く11チームの中で下位2チームは7月に行なわれる入替戦に出場しなければならない。昨年PTSは上部リーグの下位1チーム【高校生チームの出場が停止となったため1チームのみ】と下部リーグの上位3チームとの4チームで行なわれた入替戦において下部リーグから出場し、3戦全勝の完全優勝を果たしコアチームへの昇格を決めている。)

初戦の秋田大会では、主将の石井寿依3等陸曹と主要選手である梶木真凜陸士長が怪我で欠場し苦戦を強いられたが、葛西3曹が4トライと活躍し、大会優秀選手のドリームセブン(ラグビー専門WEBマガジンRUGBY JAPAN 365による)に選出された。

東京大会から梶木士長が復帰し、大柄な外国人選手にも臆せず果敢にタックルするなど活躍を見せると、伊藤陸士長が4トライを上げ大会全体でのトライランキングで5位につけた。

鈴鹿大会でも伊藤士長は通算6トライを上げ、外国人選手2名と並び大会トライランキング1位となり、5トライで4位に入った梶木士長はFWとBKを兼任し、ボールを動かしたときの展開力、ボールの争奪や走力も評価されドリームセブンに選出された。また鈴鹿大会終了時点で葛西3曹が通算13トライを上げシリーズ全体のトライランキング7位、得点ランキング10位に入る活躍を見せるなどチームに弾みをつけた。

PTSは東京と鈴鹿の2大会でチャレンジトロフィー(9位)を獲得するもさらに上位を目指し、最終戦へと舵を切った。

最終戦の富士山裾野御殿場大会では、主将石井3曹が復帰し総力戦となった。豪雨が降りしきるなか激闘を繰り広げ1勝2敗で2日目につなげたが、悪天候のため大会中止となり3試合を残してシリーズ戦を終えた。

果敢にトライ決め 存在感示す



悪天候のなか笑顔で試合に向かう選手たち

今季で得たものは 自信  
来季は個々のスキルアップ課題に

今シーズンでチームを牽引し続けた葛西3曹は「総合順位は8位と目標の5位になることはできず悔しい結果に終わったが、シリーズ初出場となる選手も多いなかとてもいい経験ができたと思う。なかなか勝つことはできなかったが、トップレベルのチームに通用する部分もたくさんあり自信もついた。規律を守るプレーや団結力、走り勝つことなど自衛官らしい姿も見せることができたと思う。」と振り返り、「自衛隊体育学校PTSはまだまだ上を目指せるチームなので、来季は一人ひとりのスキルをもっと磨きベスト4入りを目標に頑張りたい。応援ありがとうございました。」と来季への決意を固めた。

※階級は大会当時



シリーズ戦を戦い抜いた自衛隊体育学校PTS

